

保	育	の	父	・	佐	竹	音	次	郎	に	学	ぶ	会	★	通	信
	音	次	郎	会	◆	I	N	F	O	◆	v	o	l	.	2	2

ホームページ：<https://otojiro.link>

eメール：info@otojiro.link

取引銀行 幡多信用金庫 下田支店 普通預金 88502

(名義) 保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会 会長 中平菊美

ゆうちょ銀行 振替口座 01650-8-43162

(一般銀行向口座番号：当座預金 一六九店 43162)

(名義) 保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会

新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが、今春に季節性インフルエンザと同等の「5類」に引き下げられることになり、いよいよ平時に向け大きな転換点を迎える事になりました。音次郎会では2023年、整理が進んだ史料を用いてどんどん音次郎の「保育」について学びを深めたいと願います。

音次郎会から会員の皆さまに会報（メールマガジン）と読み物シリーズ、今回は新年特別版として読み物シリーズは2本立てでお届けします。

◆◇INDEX◆◇

- 【1】 日誌（複製版）を濱田知事に贈呈する
- 【2】 日誌（複製版）がオーテピアなどに収蔵される
- 【3】 第1回「史料読み解き学習会」開催のお知らせ
- 【4】 協賛企業の募集について

-----◆◇◆◇

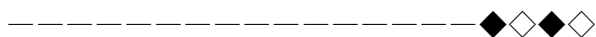
【1】 日誌（複製版）を濱田知事に贈呈する

昨秋、音次郎会では日誌複製版を四万十市へ贈呈し、市立図書館にて公開されました。その後、さらに人口の多い県都・高知市の各施設においても複製版が収蔵され、多くの歴史研究家の目に触れられないものかと検討してきました。理由は、音次郎研究の基礎資料となる日誌は膨大な量ゆえに音次郎会だけでは読み解くのが困難で、多くの歴史研究家の協力を求めているからです。

新伝記出版祝賀会に地元選出の県議会議員が揃って出席くださっていた事から想起して、その旨相談したところその夢が叶えられ、県庁の知事応接室にて濱田省司(はまだ・せいじ)知事に手渡す事が出来ました。

贈呈式では知事から音次郎会に感謝状が贈られ、中平会長が受け取りました。今回の交渉窓口となってくださった高知県教育委員会幼保支援課との打ち合わせにより、県下3施設で日誌複製版が収蔵される事となり、これがこれから保育の父の研究ばかりではなく明治～大正～昭和の時代を物語る史料としても有効に活用される手はずが整いました。

贈呈式の様子は高知新聞と朝日新聞に掲載されました。高知新聞の記事は会報の最終ページに印刷しております。贈呈の様子などはホームページで見ることができます。ご協力くださった皆様に感謝申し上げます。



【2】日誌（複製版）がオーテピアなどに收藏される

高知県立オーテピア高知図書館（通称：オーテピア）は2018年7月に高知県立図書館と高知市立図書館が合併して中四国最大規模を誇る図書館として開館しました。オーテピアでは県下のあらゆる発行図書を收藏する事も目指しておられ、今回の音次郎日誌複製版についても喜んで受け入れてくださいました。

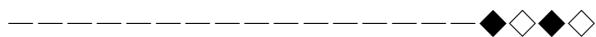
また贈呈に伺った時、既にオーテピアが收藏している音次郎関連書籍をすべて陳列していただきっており、今後は保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会が收藏する図書の内、部数に余裕のあるものについては更にオーテピアに寄贈するなどして、蔵書の協力も行っていく予定です。

また高知県立 高知城歴史博物館にも1組が收藏されました。城博は2017年3月に開館し、1月12日に5年10ヶ月目にして来会者累計50万人に達しました。保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会とは城博開館当初に音次郎会が縁者からの史料を提供を受けてから関わりを持ってくださっています。これまでに打ち合わせに2回、講演会に1回、史料整理作業に8回、合計11回も足を運んでくださっています。

知事への贈呈式では城博の渡部館長も陪席されましたし、高知新聞記事にも「音次郎個人の業績だけでなく明治から昭和の激動の時代、社会を読み解ける一級の資料。有効に活用したい」とコメントをくださっています。複製版製作の大きな部分を担ってくださった城博に收藏される事になった事は音次郎会としても大変光栄な事です。

また、残る1組は高知県文化生活スポーツ部歴史文化財課で中身の確認をした上で南国市にあります高知県立 歴史民俗資料館へ收藏される予定です。

2施設への贈呈の様子などはホームページで見ることができます。また、音次郎会ではオーテピアや歴民館で展示されれば訪問したいと計画しております。



【3】第1回「史料読み解き学習会」開催のお知らせ

音次郎会は、保育の父・佐竹音次郎について研究することを通して音次郎の「聖愛一路」の理念を継承し、地域の福祉文化の発展・向上に寄与することを目的としています。発足当初には音次郎史料の少なさを懸念し、史料収集も重要な活動目的にしておりましたが、今回の日誌複製版完成により一定の研究土壌が整いました。これからはいよいよ「音次郎に聴く」学ぶ会としての本分を果たしていきたいと思っております。

記念すべき第1回目の「史料読み解き学習会」を下記の通り開催します。記念すべき初回では関東大震災の「その日」を音次郎日誌から読み解きます。今まで史料整理作業にも尽力して下さった高知県立 高知城歴史博物館からも指南役としてご参加くださいます。ふるってご出席ください。

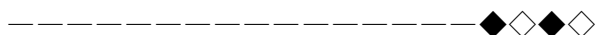
日時 : 2023年2月11日(土/建国記念日) 13:30-15:00

会場 : アピアさつき 屋上事務室横会議室(四万十市右山五月町8-13)

内容 : 音次郎日誌(原本)複製版の読み解き

日誌(11)大正12(1923年)9月1日

お問い合わせ先: 音次郎会事務局 TEL 33-0247(若草園)



【4】協賛企業の募集について

音次郎会では現在、会員の募金と若草園(母体法人含む)からの助成金を資本に活動を続けております。設立当初よりメインバンクである幡多信用金庫さんには協賛企業として毎年ご寄付を頂き、新伝記出版に際しては旧幡多郡下の全小中学校(旧窪川町も含む)への贈呈資金提供もしていただきました。しかしその後、協賛企業の広がりはなく、音次郎会を支援頂いている企業は現在、幡多信用金庫さんのみです。

音次郎会では音次郎郷里のふるさと教育の一助となればと、継続的に地元4小学校の卒業式に卒業記念品として新伝記を贈呈する活動を実施しています。その拡大もしたい所です。

会員の高齢化などにより会員からの募金も少なく、今後の活動資金についても新たな取組も必要です。会員のみなさまで思い当たる協賛企業がございましたら、事務局まで御一報ください。よろしくお願いたします。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 現在の会員数 122名 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

2023.1.27 Fri

日本で初めて「保育」という言葉を生み出した「佐竹音次郎」に関心のある方、入会希望者のご紹介など、お気軽にご一報ください。事務局から案内をお送りします。現在、地元会員、特に60歳以下の方がとても少ない状況です。ぜひお願いたします。

「保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会」 会長 中平菊美

各種お問い合わせは →→→ 四万十市下田2211(若草園内)
0880-33-0247 瀬戸へどうぞ♪

ホームページ: <https://otojiro.link> eメール: info@otojiro.link



佐竹音次郎日誌複製 県に寄贈 四万十市の学ぶ会「功績知って」

【幡多】四万十市竹島出身で5千人以上の子どもを育てたとされる保育事業家、佐竹音次郎(1864~1940年)を顕彰する「保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会(中平菊美会長)は10日、音次郎が記した日誌の複製本3セットを県に寄贈した。県立高知城歴史博物館と県立歴史民俗資料館、オニテピア高知図書館に收藏される。

同市の有志でつくる同会は、音次郎が明治後期から昭和初期に記した日誌を手1タ化し、31冊の複製本に整理。会員だけでは音次郎の生涯や業績の研究に限界

があることから、多くの県民の目に触れるよう寄贈先を県庁での寄贈式で、中平会長から複製本を手渡され、だいたい尽力には頭が下がらぬ。音次郎の功績を多くの県民に知ってもらえるよう努力したい」と応じた。

取材に対し、複製本を収蔵する同博物館の渡部淳館長は「音次郎個人の業績だけでなく、明治から昭和の激動の時代、社会を読み解ける一級の資料。有効に活用したい」と話していた。

(芝野祐輔)



佐竹音次郎日誌の複製本を県に寄贈する四万十市民有志(県庁)